

## 1. コシヒカリの生育状況

移植コシヒカリ（6/16 現在）の生育は、生育が早回っており分けつも確保されています。

	草丈(cm)	茎数(本/m <sup>2</sup> )	葉令(L)	葉色
H27	39.6	441	9.6	4.3
H26	39.7	364	8.9	4.4
近年値	35.0	359	8.6	4.4

注) 数値は、メルヘン展示圃の平均値。近年値は平成 18~26年の平均値。

## 2. てんたかくの穂肥

### 1) 基肥一発肥料体系：原則、追肥の施用はありません

- ただし、6月下旬頃に葉色が4.0を下回りそうな場合は、直ちにメルヘン3号で7kg/10a（N成分：1kg/10a）程度の追肥を行きましょう。

### 2) 分施肥体系：穂肥の施用について

- 下表を参考に施用しましょう。

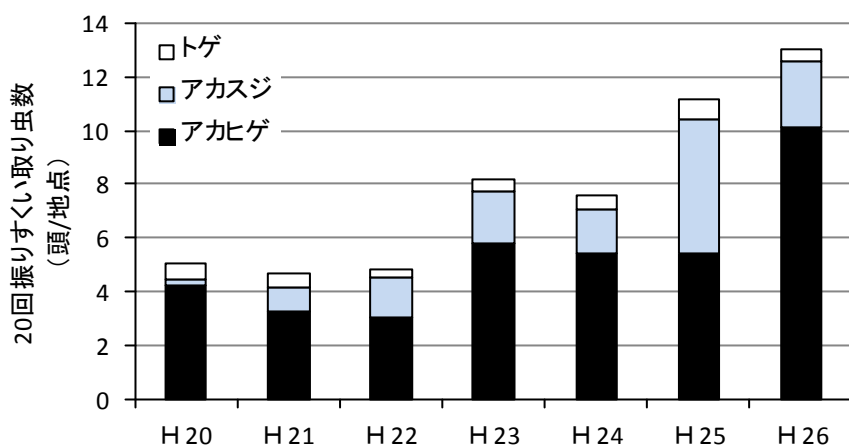
施用時期の目安(5月上旬植え)		メルヘン3号施用量(kg/10a)		
1回目 (幼穂長2mmの時期)	2回目 (1回目の10日後)	土壌区分	1回目	2回目
<b>6/25頃</b>	<b>7/5頃</b>	沖積田	10	10~13
		洪積田		

※ 田植日や、ほ場によって生育が異なるので、必ず幼穂長2mmを確認しましょう。

※ 緑肥跡等での作付で生育が旺盛な場合は、事前に営農指導員や普及指導員にご相談ください

## 3. 草刈りで斑点米を防ごう！ ～カメムシは畦畔等の雑草地にいる！～

- カメムシは、稲の出穂前には畦畔の雑草種子を餌として付近に潜み、出穂時に本田に侵入して穂を食害することで、斑点米を発生させます。このため、出穂前に畦畔の草刈りを実施し、カメムシの発生を抑えましょう。



カメムシは年々増加。  
 今年はアカヒゲ、ホトトリカスカメ等のカスカメ類が多く越冬しています



- 体長 5~6mm
- 寄主植物 イネ科植物

図 畦畔等の雑草地における斑点米カメムシ類のすくい取り虫数の推移  
 ※各地区農業技術者協議会調査（6月下旬頃~7月上旬）

**草刈運動期間** 7月1日（水）～10日（金）  
**県下一斉草刈日** 7月4日（土）～5日（日）

※刈り取った草は用水に流さないようにしましょう。

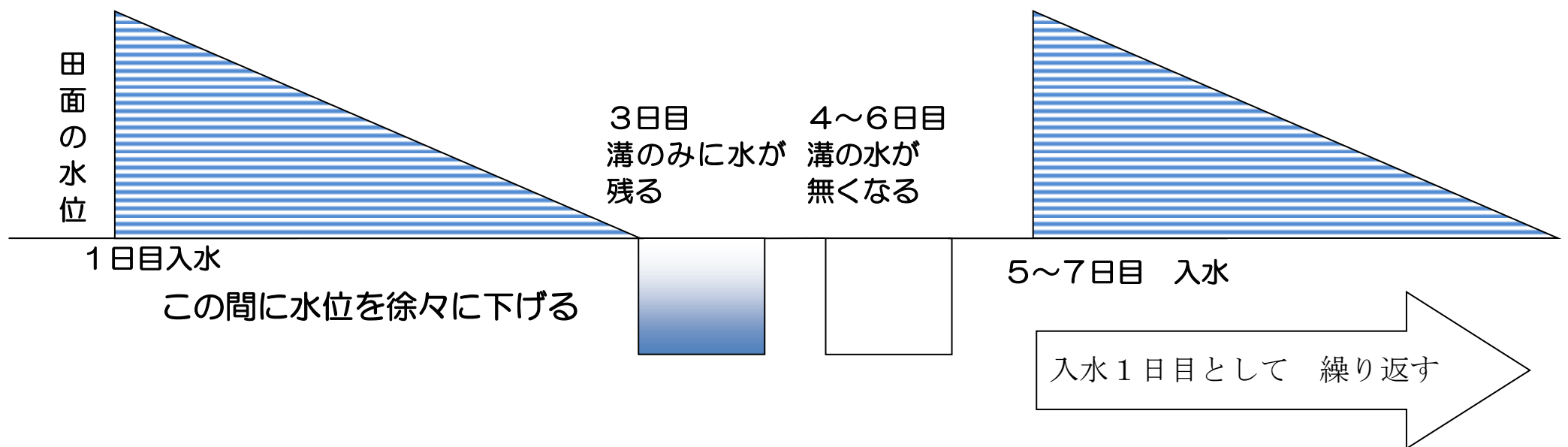
—裏面に続く—

## 4. 中干し～幼穂形成期の水管理 一米の品質・収量は今後の水管理で決まる！

中干し後は幼穂形成期（7/10頃:コシヒカリ）まで「**間断かん水**」を  
しっかり行いましょう。

- 間断かん水とは、1日入水した後に数日（2～4日）かけて水位を落としながら田干しし、田面の溝に水がなくなったら再び入水し、それを繰り返す水管理の手法です。

【間断かん水の入水・落水のイメージ：3～4日間で落水する場合】



## 5. クサネムの防除 ～クサネム種子の混入に注意しましょう～

- クサネムは刈取りの邪魔になる上、種子が出荷製品に混入すると異物混入としてクレームの対象となります。良質米産地としての信頼を得るために、混入防止に努めましょう。

クサネムの種子は色彩選別機でも全て除去するのは困難なため、収穫前に抜き取ってください。

後期除草剤の散布は収穫前日等の散布時期がありますので、ラベルを確認の上、散布して下さい！



＜後期除草剤を使用する場合＞

- ・ノミニー液剤：収穫60日前までに散布しましょう。
- ・バサグラン液剤：移植後50日まで散布可能ですが、  
収穫50日前までに散布しましょう。
- ・ワイドアタック SC：収穫30日前までに散布しましょう。